Academic Link
Chiba University | Academic Link Center

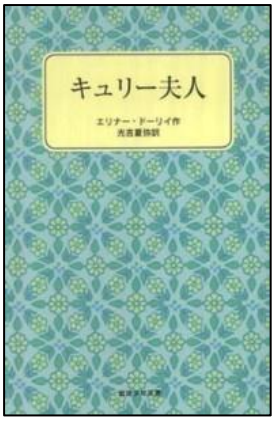
1210あかりんアワー　教員が研究の楽しさを語る
第85回（12/2）石原安野先生 推薦ブックガイド

※掲載されている本はL棟2階　あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

キュリー夫人

著者：E.ドーリイ 作；光吉夏弥 訳；ロバートギビングス 絵
出版社：岩波書店



Book2

キュリー夫人伝

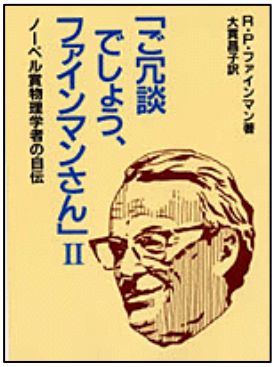
著者：エーヴ・キュリー著；河野万里子訳
出版社：白水社

コメント：Book1 は小学校時代に読み、私が物理学者に対する漠然とした憧れや、尊敬、おもしろそうといった興味をいだくようになった最初の本。Book2　はより一人の人間としてのキュリー夫人の生き様を感じる本です。
　科学というのは歴史に翻弄され、その上で進展してきたこと、そして他人にどうみられようと、一人の小さな人間の前が見えない中でのひたむきな情熱と努力によって大きく進展することがあるという普段忘れがちな大切なことを思い起こさせる本でもあります。キュリー夫人はやはり(ここまで頑張れる人はそうそういないにしても)科学者として、女性としても自分に限界を作ってはいけないと感じさせてくれる人で、励ましのメッセージでもあると思っています。文系理系問わず、ぜひ歴史上の人物以上に身近に感じてもらえたらと思います。

Book3

「ご冗談でしょう、ファインマンさん」：ノーベル賞物理学者の自伝

著者：リチャード・P.ファインマン著；大貫昌子訳
出版社：岩波書店



コメント：冗談みたいにおもしろい本。自分の好奇心を大切にして、常識にとらわれず、自分の頭の中に世界があって、おもしろいと思ったことは気が済むまで突き詰める人。物理学もまわりの世界も、自分の人生も、見方を変えれば、本当はもっともっとおもしろいんじゃないか、と感じさせてくれる本。

※掲載されている本はL棟2階　あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book4

若き数学者のアメリカ

著者：藤原正彦著
出版社：新潮社
コメント：私は学部を日本で卒業後、博士課程をアメリカの大学院で終えました。「若き数学者のアメリカ」はずいぶん前の本ですがそれでも、学問でアメリカで一旗あげるぞという若者の心の揺らぎや隙間を言葉にしている良い本だと思います。アメリカに学問の武者修行に来た人間の若者らしい自信と不安の行ったり来たりが描かれていて、みんながキュリー夫人やファインマンさんやアインシュタインにはなれなくてもいいんだと、1,2,3,の本とは逆方向から学問を目指す学生を励ましてくれている本。

Book5

宇宙を解く壮大な10の実験

著者：アニル・アナンサスワーミー著；松浦俊輔訳
出版社：河出書房新社
コメント：IceCube実験を含む宇宙を知るための大規模実験について、（少々大げさぎみだけど）ロマンチックな視点で描いています。